

神奈川・米町遺跡（第一〇地点） こめまち

- 1 所在地 神奈川県鎌倉市大町二丁目
- 2 調査期間 二〇〇一年（平13）一月～六月
- 3 発掘機関 米町遺跡発掘調査団・鎌倉遺跡調査会
- 4 調査担当者 降矢順子
- 5 遺跡の種類 都市跡
- 6 遺跡の年代 一三世紀第Ⅰ四半期～戦国時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（横須賀）

米町遺跡は、若宮大路下馬交差点の東・現大町交差点周囲にあり、下馬交差点から名越を抜ける県道鎌倉・葉山線の南、県道より逆川に向かってなだらかに下る傾斜地に立地している。現況の海拔は調査地北側で約八・二〇m、南側で約六・二〇mを測り、逆川に接している。『新編相模国風土記稿』によれば、鎌倉十橋の一つで長さがおおよそ九尺の逆川橋が、調査地点の南

西部分に架かっていたとされる。逆川の川底は岩盤で、ほぼ平坦な泥岩面となっている。なお、遺跡名に使用されている「米町（穀町）」は、建長三年（一二五二）に定められた鎌倉中で商売を営んでもよい七カ所の町屋（大町、小町、米町、亀ヶ谷辻、和賀江、大倉辻、気取飛坂山上）の一つである（『吾妻鏡』同年二月三日戊午条）。

検出した遺構は三期に区分でき、一期には鳥居・地下倉・土坑・溝、二期には道路状遺構・溝・石組み・土丹敷き遺構・方形竪穴建築址・井戸、三期には道路・板壁建物（家屋）・井戸、四期には柱穴・土坑群・井戸・溝状遺構などがある。また、中世以前では、波触台岩盤土に堆積した黄褐色砂層中より弥生時代の土器片が出土した。その上に堆積した青灰色砂質土や中世遺構の覆土中からは、奈良・平安時代の土器片も出土している。したがって、遺構としては確認されていないが、この周辺一帯では奈良・平安時代頃には生活が営まれていたと思われる。

木簡は、三期に属する家屋一・二から各一点、家屋三から二点、方形土坑から一点、四期の包含層から二点、計七点出土した。

家屋一は、後述の家屋二と比べると部屋の周囲の壁が不鮮明で、部屋として捉えられるのは二室であるが、他の家屋には見られない木組み状の遺構がいくつか確認されている。規模は東西一五・〇m南北七・二mを測り、面積は一〇八㎡程となる。木簡は家屋内の包含層から出土した。

家屋二は、木組み溝と通路に挟まれた空間に位置する。部屋として九室を確認している。規模は東西七・二m南北一六・〇mを測り、面積は一一五㎡程となる。木簡は部屋六四四内の包含層から出土した。

家屋三は、現状で東西八・六m前後、南北一五・〇m、面積は一二九㎡程であるが、東側の区画施設が確認されないため、実際の規模はもう少し大くなる可能性がある。木簡はいずれも家屋内の包含層から出土した。

方形土坑は、長辺一三八cm短辺一三六cm、確認面での深さ六〇cmを測る。底面は岩盤を平坦に削り、ほぼ中央に径五〇cm弱深さ七cmの浅い円形のくぼみがあり、井戸と考えられる。木簡はその掘り込み部分の底面から出土した。

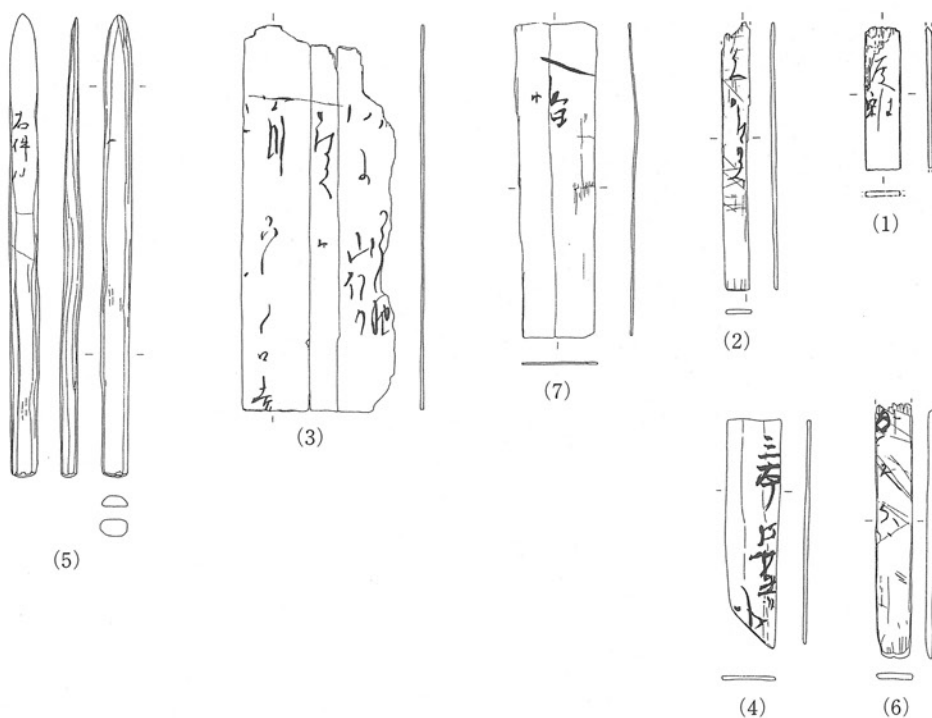
8 木簡の釈文・内容

家屋一

- (1)  [屋敷力]
(97)×(24)×4 061

家屋二

- (2) 
(184)×17×3 019



家屋三

(3) □にから地
□山□り

四月□□□□

(265)×(101)×2 081

(4) □□□□□□

157×36×3 051

方形土坑

(5) 右件□

317×20×13 061

包含層

(6) □□□□

(175)×(25)×7 061

(7) □□□□

215×(56)×2 061

9 関係文献

(1)(6)(7)は折敷の断片。(5)は筧。木簡を二次的に加工したものか。

鎌倉遺跡調査会『米町遺跡発掘調査報告書』(二〇〇五年)

(降矢順子)

神奈川・由比ヶ浜南遺跡

1 所在地 神奈川県鎌倉市由比ヶ浜四丁目

2 調査期間 一九九五年(平7)年三月～一九九七年六月

3 発掘機関 由比ヶ浜南遺跡発掘調査団

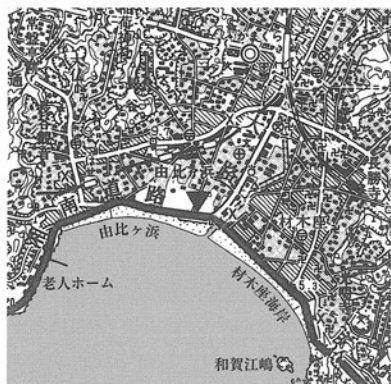
4 調査担当者 齋木秀雄

5 遺跡の種類 都市跡

6 遺跡の年代 一三世紀第Ⅰ四半期～一五世紀後半

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

由比ヶ浜南遺跡は、鎌倉市旧市街地のほぼ中心を南北に流れる滑川の西岸に形成された砂丘上に位置している。この砂丘は、現在の



(横須賀)

鎌倉市内のうち、東は滑川西岸、北は下馬交差点から長谷観音前に至る国道一三四号線、西は鎌倉・江ノ島電鉄線の長谷駅横の道路周辺にまで広がっている。長谷駅西の道路辺りは稲瀬川の旧河道であるため、調査地の立地する砂丘は、滑川